

## 1 審議会委員の意見

- (1) 計画書の記載に関するもの・・・P 1～P 16  
 (2) 施策等に関するもの・・・・・・P 17～P 20

## (1) 計画書の記載に関するもの

番号	施策等	審議会委員の意見	関係施策等
1	全体	若い世代の流出を防ぐ具体的な対策が分からない。	
2	全体	全ての分野を網羅した計画になっており、目玉が何か分からない。	
3	全体	周囲に同じようなまちが多いので、個性のあるまちづくりを進める必要がある。	
4	全体	この計画書の特徴として、具体的にどのように進めていくのかが伝わってこないという感じを受けるので、例えばそれぞれの基本事業の中に、主な事務事業を提示するなどして、具体性を出した方が良いのではないか。	
5	全体	高齢化が進んでいく今後は、ハード面の発展だけでなく、人への思いやりが大切になってくる。そういったまちをこれから10年でつくることが求められている。	
6	全体	取組を進めるためには、市だけが実践していくのではなく、大学、企業、商店などまち全体で取り組む必要がある。	
7	全体	お年寄りが安心して暮らすことのできるまちをめざしてほしい。	
8	将来の都市像	これまでの将来の都市像を総合的に反映させたものが今回の将来の都市像の案であり、理念ということができると思う。	
9	将来の都市像	都市像の案は、大切にしていきたいと考えている4つの要素で構成されており、人口増加の目標を掲げることで、近隣から人を呼び込む、攻めの意思が込められた案であると感じる。	計画人口
10	将来の都市像	都市像の「みんなで支えあう」「緑あふれる」「元気あふれる」「住みよいまち」の説明が記載されており、理念として市民も理解ができるものと思う。	
11	将来の都市像	第五次総合計画の将来の都市像は、これまでの集大成と呼べる都市像であり、さらにまちの魅力を高めることで、人口増加を図ることが表れている良い都市像であると思う。	
12	将来の都市像	第一次から第四次までの「住」を基本として、「健康」と「環境」というこれまでの理念を踏まえ、「支えあう」という東日本大震災以降に地域が求めている考えも含まれており、必要な事項は網羅されていると感じる。	
13	将来の都市像	緑や健康についても都市像に触れられており、理解ができる。	

14	将来の都市像	都市像が、まちづくりの理念として、これまでの計画の集大成かつ今日的な表現になっていると感じる。	
15	将来の都市像	将来の都市像が少し長いと感じる。	
16	将来の都市像	理念というのは、簡単に変えてはいけないものであり、変えるためには、重大な決断が必要ではないか。	
17	将来の都市像	これからは、多くの市民が参加しながら、支えあうということが重要になってくることから、「みんなで支えあう」という言葉が都市像に含まれていることは良いと思う。	
18	将来の都市像	健康都市が、市民に十分浸透してきたと感じているので、市の特色として打ち出してはどうか。	
19	将来の都市像	尾張旭市の理念がずっと「健康都市」であると考えているので、サブタイトルとして将来の都市像に加えてはどうか。	
20	将来の都市像	健康都市の考え方は今後も重視して欲しい。	
21	将来の都市像	公園都市ではミッションより一つ下の階層のように感じられるので、第五次総合計画の都市像は健康都市に戻したほうが良いと思う。	
22	将来の都市像	「健康都市」という文言は、第一次と第二次には含まれていますが、第三次と第四次には表現されていない。 その考え方は継続していることからすると、「健康都市」の文言を必ずしも入れなければならないということはないと思う。	
23	将来の都市像	この先10年の総合計画を策定するにあたって、健康都市をより一層アピールしてはどうか。	
24	将来の都市像	市のブランドの一つとして定着している「健康都市」を変更していいか疑問がある。	
25	将来の都市像	まちの個性を出すことは、人が居住地を選択する際、非常に重要な要素となる。尾張旭市が掲げる健康都市は、全国の中でもブランドとも言える、国際的にも通用するフレーズであると思う。	基本構想 (全体)
26	将来の都市像	これまでの総合計画では、健康都市や公園都市といった、どちらかといえば「住」が中心に据えられてきたが、市の特色を出すために、農業、工業を含めた新しいものづくりという視点を、将来の都市像の説明の中に含めてはどうか。	
27	将来の都市像	都市像の説明の中の「元気」は、健康だけでなく産業の振興も含まれるものならば、「企業、商店」と具体的に明示すると「農業や勤労者」が含まれていないような誤解を招くので、「産業の活気があふれる」という視点から表現を検討した方が良い。	

28	将来の都市像	何を売りにしてまちづくりを進めていきたいのかが将来の都市像に含まれており、健康都市の取り組みも継続していくということであれば、キャッチフレーズを別に考えることも検討してはどうか。	
29	将来の都市像	将来的に、都市像とは別にキャッチフレーズを決めるのであれば、健康都市という尾張旭市のブランドをぜひ生かしていただきたいと思う。	
30	将来の都市像	名古屋市東部の各市が競い合っ、まちの魅力を高めているので、その中で、尾張旭市には個性のあるまちづくりを進めて欲しいと思う。	基本構想 (全体)
31	将来の都市像	将来の都市像が長いと感じるものの、高齢化社会を迎えるにあたっては支えあうことが必要で、健康という概念は元気あふれるに含まれ、緑も含まれており、十分に議論されて原案が作成されたと思う。	
32	将来の都市像	この都市像には、公園都市も健康都市も含まれており、「住みよいまち 尾張旭」が集約した結果のように感じる。	
33	将来の都市像	これまでの都市像は少し堅苦しいイメージの言葉が使われていたが、今の都市像(案)は分かりやすくて良い。	
34	将来の都市像	「みんなで支えあう」は、東日本大震災や安心できる暮らしのためには必要なことで、「緑あふれる」や「元気あふれる」の中に、緑や健康、農業や商業も含まれており、「住みよいまち」には、尾張旭に住みたいという思いが含まれている。市のイメージをもっと発信して欲しいという思いも込められており、今の時代にあった、都市像であると感じる。	
35	将来の都市像	今回の都市像の案は、過去の将来の都市像を全部合わせた、言い換えれば集大成ともいえる都市像ではないかと思う。	
36	将来の都市像	魅力あるまちをつくることにより人口の流出を食い止め、住みよいまちをつくることで人口の増加を図ることをめざしていくという想いから、「公園都市」を「緑あふれる 住みよいまち」に変えたことは理解できる。	
37	将来の都市像	将来の都市像は、この後いろいろな物に掲載されていくだろうから、ある程度すっきりしたほうが良い。	
38	将来の都市像	都市像の案ですと、尾張旭市がどのようなまちかが一目で分かるように思う。フレーズが長いと思いますが、その分まちのイメージがつかみやすくなると思う。	
39	将来の都市像	都市像は、短ければ良いとは思わない。将来の都市像は文字で見ることが多いので長くても問題ない。	
40	将来の都市像	都市像の内容自体はとても良く、丸印で囲われた説明も十分理解することが出来るが、市民に覚えてもらえるかどうか気になる。	

41	将来の都市像	都市像の説明として4つの言葉に分解した説明が掲載されており、それぞれ明瞭でわかりやすい。	
42	将来の都市像	将来の都市像は、丸印の中の解説を読むとその意味が良く分かるが、題名だけでは分かりにくいと思う。	
43	将来の都市像	84,000人が攻めの計画であるというご意見があったが、将来の都市像の説明の中に攻めの言葉を入れて欲しいと思う。	
44	将来の都市像	新しい都市像を作ったということでチャレンジしているのが良く分かる。	
45	将来の都市像	都市像がある程度定着すれば、切り替えても良いので、過去にこだわらず決めていけば良い。	
46	将来の都市像	まちづくりの理念である都市像を変えることは疑問である。	
47	将来の都市像	全国的に人口が減少するなかで、尾張旭市は人口を増加させる「攻め」の総合計画を策定しようとしているが、その戦略を「住みよいまち」という都市像でソフトに表現しており、評価できる。	
48	将来の都市像	都市像に「尾張旭」という市の名称が入れてないと、どこのまちでも使える都市像になってしまうので、良い。	
49	将来の都市像	都市像の案がキャッチフレーズであると考ええると、長すぎると感じるが、まちの理念と考ええると適切であると感じる。	
50	将来の都市像	市のキャッチフレーズが市民の側から市を売り込むアイデアとして出てくるといいと思う。	
51	将来の都市像	尾張旭をイメージできるようなものがあるので、都市像とキャッチフレーズが別にあっても良い。	
52	将来の都市像	「みんなで支えあう 緑と元気あふれる 住みよいまち 尾張旭」から「まち」を切って、「住みよい尾張旭」としてはどうか。	
53	将来の都市像	将来の都市像に書かれている「まち」が、「みんなで支えあうまち」「緑あふれるまち」「元気あふれるまち」「住みよいまち」と言うように、全ての要素にかかってくるものであれば、「住みよい」と「まち」の間にスペースを入れてはどうか。	
54	将来の都市像	「みんなで支えあう尾張旭」「緑あふれる尾張旭」「元気あふれる尾張旭」「住みよいまち尾張旭」と考えるのであれば、「住みよいまち」と「尾張旭」の間に「＝」記号を入れてはどうか。また、単語ごとに「・」を入れてもよいのではないか。	
55	計画人口	県内・全国から人を呼び込むインパクトのある事業が、計画から読み取れない。	基本構想 (全体)

56	計画人口	計画人口の達成は、現状の人口から考えると厳しいと感じる。これからの10年間を考えると新たに地下鉄の路線が開発された名古屋市南東部への人口集中が進むと思うので。相当のことをやらないと、人口は増えないと思う。	
57	計画人口	人口を増やそうとする意図が、計画の各論の中から見出せない。各論部分で、積極的に事業を進めていこうという意味が伝わるような記載が必要ではないか。	基本構想 (全体)
58	計画人口	重点的に進める取り組みが書かれていないことが気になる。	基本構想 (全体)
59	計画人口	尾張旭市を中心とした広域で見ると人口は減っており、子育て世代の奪い合いが起こると思う。今後はどのようにして人口を増やしていくかを整理して記載した方が良い。	政策1
60	計画人口	「主に子育て世代の流入を図り社会増減を増加に転じさせることなどで、定住者の増加を図ります。」と記載されているが、目的と手段の関係が逆だと思う。例えば、「主に子育て世代の流入により、定住者の増加を図り、社会動態を増加に転じます。」という表現のほうが良いと思う。	
61	計画人口	今後高齢化が進むなか、計画人口のうち高齢者の割合がどのように推移していくかを押さえておく必要がある。	
62	土地利用構想	将来的には、農地や商店を住宅地の中に作って、組み込んでいくことを考えてもいいのではないか。高齢化が進んでくると、外出が難しくなるので、身近な地域で自然が感じられる、買い物ができるようなランドデザインがあってもいいと思う。	
63	土地利用構想	今までは、都市計画によって合理的な土地利用が進められてきたが、その弊害として画一的で魅力の少ないまちができてきたという反省もある。これからは、秩序あるモザイクのまちという考え方もあるのではないかと感じた。	
64	土地利用構想	土地利用構想には、標準的なことが書かれているだけで、第一印象としては、何も記載されていないに等しいと感じた。人口推計結果が減っていく中では、相当の覚悟を持ってやらなければならないと思う。	
65	土地利用構想	駅周辺の利便性を高めることやソフト事業の充実によって市の魅力を高めることで、外から人を呼び込み、中から出ていく人を減らしたいというメッセージをどこで記載するかが重要だと思う。	
66	土地利用構想	住宅地を増やすことなく、市の魅力を高めることで人を呼び込むという思想を土地利用構想の中に記述することはできると思う。	

67	土地利用構想	P 1 2 「第4章 土地利用構想」 原文には、メッセージが皆無としますので、「5つに区分し、恵まれた…土地利用の誘導に努めます。」という記載を、「5つに区分し、恵まれた…土地利用の誘導に努めます。また、各区分の面積割合は大きく変えることなく、各区分の魅力を高める土地利用をめざします。」に修正した方が良い。	
68	土地利用構想	1 2 ページの土地利用構想の中で具体的な記載が難しいのであれば、2 5～2 6 ページの土地利用の部分の記載を見直してはどうか。	
69	土地利用構想	P 2 5 「4 土地利用」 1 住宅系土地利用 「本市に設置されている4つの駅周辺地区を中心に居住機能の高度化と住宅・宅地の供給力の向上を図ります。」を文頭に挿入した方が良い。  ※保育短期大学跡地について 「必要に応じて見直しを行います。」という記載を、「本市の大切な資産であるため、周辺地域との連携に配慮しながら有効に活用できるよう検討を進めます。」に修正した方が良い。	
70	土地利用構想	P 2 5 「4 土地利用」2 6 ページの土地利用構想図中には「瀬港線（国道3 6 3号）」と記載されているので、「2 商業系土地利用」の2行目の「・・・国道3 6 3号線及び・・・」の「線」は不要。	
71	土地利用構想	P 2 5 「4 土地利用」 第五次総合計画（平成2 6年度～平成3 5年度）が法規制のある都市計画マスタープラン（平成2 3年度～平成3 7年度）の計画期間の中に入るので、違いがあれば整合させる必要がある。	政策 3
72	土地利用構想	土地利用について、総合計画（案）と都市計画マスタープランの間に差異がある。同じ市として政策を進めていく以上、両計画の整合を取る必要がある。	
73	土地利用構想	平子町東地内を、先端技術の事業所を誘致する地区を工業系として区分し、土地の有効利用を検討してほしい。	
74	土地利用構想	稲葉地区や城山公園南側、旭ヶ丘地内の農地は市の貴重な財産であり、残すよう区分すべきである。	
75	社会環境の変化	P 3 「3 子どもを取り巻く社会環境の変化」 「地域や家庭における教育力の低下・・・」と記載されているが、次に続くいじめや児童虐待など様々な問題の原因が、家庭・地域にあるといった感じに受け取れるので、表現を変えてはどうか。	政策 1 政策 2
76	尾張旭市の現状	P 4 「財政状況の推移」 「市税収入の推移」の図表があると良い。	

77	尾張旭市の 現状	P 5 「健康都市の取り組み」 健康政策の大切さが記載されているだけなので、約 10 年間にわたる取り組みの分析評価に関する記載も必要である。	
78	尾張旭市の 現状	P 5 「健康都市の取り組み」 健康都市宣言以降の主な取り組みを載せた方が良い。そうすることで、下段の「健康都市の取り組みのイメージ図」が具体的に見られると思う。 今後 10 年「健康都市」をブランドの一つとして定着させるのであれば、ページを増やす等もう少しアピールした方が良い。	
79	市民の意識	P 6 「市民の意識」 「ずっと住みたい」と「できれば住みたい」を加えた割合は、10 年前に比べて高くなっており、市の施策に対する満足度・重要度が共に高くなっている。それにも関わらず、「ずっと住みたい」と回答する割合が低くなるという表現は少し違和感を覚えるし、前回調査と比較して統計誤差とも言える 4 ポイントの下落をもって定住志向が下がっていると記述することについては検討が必要ではないか。	
80	市民の意識	P 6 「市民意識調査(アンケート)やまちづくりに係る中学生アンケートから」 「「ずっと住みたい」と回答する割合は減少しています」という記載を、「「ずっと住みたい」と回答する割合は高い水準にあるものの、若干減少していることに留意が必要な状況です。」に修正した方が良い。	
81	まちづくりの 進め方	分野横断的な取り組みを進めるということが書かれているが、具体的な進め方が記載されていると良い。	
82	まちづくりの 進め方	P 17 「まちづくりの進め方」 市民と行政が一体となり、秩序あるまちづくりを積極的に進める基本的な事項を定めた条例が必要だと思うので、まちづくりの進め方に「まちづくりの条例を定め、進めます」を追加すべきだと思う。	
83	まちづくりの 進め方	P 17 「まちづくりの進め方」 他の 4 つが全体的な考えを示している中で、「施設の効率的な管理運営を進めます」だけが具体的な記載となっているので違和感を覚える。 「効率的な財政運営により」を加え、施設のみならずあらゆる施策を進めるという表現の方が、適切ではないか。	政策 8
84	政策の大綱 (課題含む)	P 7 「第 3 章 尾張旭市の課題」 「尾張旭市の課題」を「まちづくりの課題」に変えてはどうか。	
85	政策の大綱 政策 1	政策の課題にのみ「治療」という表現が用いられており、他は「医療」となっているため、表現を統一したほうが良い。	

86	政策の大綱 政策 1	若い世代が不安なく子育てができること」は必要だが、他市町と比べて、さらに力を入れて取り組む部分の記載が無いといけないと思う。	
87	政策の大綱 政策 1	若い世代のかたが、住んでみたい・住み続けたいと思えるような施策がある魅力あるまちの実現に結びつく記載が必要ではないかと思う。	
88	政策の大綱 政策 1	政策の大綱を読んで感じたことは、若い世代を出来るだけ増やし、人口を増やしていくことが重要だということである。政策 1 か、政策 2 なのか迷う部分かと思うが、重要な事項なので、両政策に少しずつ記載しても良いのではないか。	
89	政策の大綱 政策 1	政策 1 において、第五次総合計画の目玉と呼べる部分は、子育て支援とみんなで支えあうという言葉であると思うが、大綱に記載された書き方では、これらの目玉が健康や医療、高齢者福祉に埋もれてしまっているように感じる。尾張旭市は、健康と医療に力を入れてきたので、健康や医療、高齢者福祉については、引き続き進めていくという記載で良いかと思うが、子育て支援については、さらに強化するといった内容にして、順序を入れ替えることで、子育て支援に力点を置くことができるのではないか。記載の順序の変更について、検討してほしい。	
90	政策の大綱 政策 1	「保育」が、一般的に福祉分野に含まれていると認識があれば良いが、そうでないのなら、(保険・医療・福祉)に保育を追加して(保険・医療・福祉・保育)としてはどうか。	
91	政策の大綱 政策 1	高齢者福祉の分野については、ハードの整備が終わり、これからソフトの整備を進めていくのであれば、政策の大綱に関係事項を記載してはどうか。	
92	政策の大綱 政策 1	元気で働くことができる高齢者は幸せで、元気があって働くこともできるのに何もやる事が無いという高齢者は多いと思う。そういう方々が社会参加できる場を作ることが、これからは必要になってくるので、そのような内容を計画に記載してはどうか。	
93	政策の大綱 政策 2	市の教育関係機関の守備範囲のことしか拾いきれていないと感じるので、高等教育機関との連携などを記載してはどうか。	
94	政策の大綱 政策 2	次代を担う人材の育成に努めるという記載より、将来の尾張旭市を背負うといった記載にする方が、尾張旭市に将来も住み続けたいという想いも生まれるのではないか。	



95	政策の大綱 政策 3	「3 都市基盤」の課題部分 都市基盤整備の重要度の順から考えて、以下の表記にしてください。 「昭和38年から、土地区画整理事業の推進などによって、新しいまちづくりが行われてきました。今後も古くからの街並み地域においては、地域の特性を活かした、市街地整備を進める必要があります。また、都市生活、環境保護という点で、公共下水道の整備が急がれます。高齢化の進行に伴い、安心して移動できる交通基盤の整備も求められています。」	
96	政策の大綱 政策 3	古い街並みをどうするかという点で、「地域の特性を保ち、古くからのコミュニティ社会を残すように、さらに防災に強いまちづくりを重視した市街地整備を進めます。」といった記載を、課題に追加してほしい。	
97	政策の大綱 政策 3	大綱に具体的に記載しているので、課題部分に道路と上下水道は記載しないということで良いのかを、表現のバランスなども考慮して検討してほしい。	
98	政策の大綱 政策 3	一番市民が望んでいるものは下水道の整備だと思うので、下水道の整備を大綱の冒頭に記載してほしい。	
99	政策の大綱 政策 3	10年先を見据えた重要な計画なので、どのような事業に力を入れていくのかが分かるように、重点施策の明確、重点プログラムの記載、重点が分かるような大綱の記載を考えると良いのではないかと。	
100	政策の大綱 政策 3	下水道には汚水処理と雨水対策という面があるので、「防災対策として」という記述を加えると、なぜ公共下水道を整備しなければならないのかがより明確になるのではないかと。	
101	政策の大綱 政策 5	今あるものを保全するだけでなく、民地の緑化も含めて新しい緑を作りだしていくことで公園都市づくりを進めていくのであれば、新たな緑・水辺環境の創出について記載すると良い。	
102	政策の大綱 政策 5	国では環境に関する社会像として「資源循環型社会」・「環境共生社会」・「低炭素社会」が掲げられており、表現を直すことで、国の政策等と整合が図られるのではないかと。	
103	政策の大綱 政策 6	都市像の前提として、政策の大綱の中に「政策6 活力あふれるまちづくり」があり、商工業、農業の振興が記載されているが、農業、工業にとどまらず6次産業化といった横断的な産業連携も増えているので、そのあたりも踏まえて、新しいものづくりについての記載を検討してほしい。	
104	政策の大綱 政策 6	農業について、尾張旭市の地域の特性のイメージが湧きにくいと思うので、農地が持つ景観や保水能力などの多面的機能を生かした、大都市近郊の立地を活かした農業の振興という記載にしてください。	
105	政策の大綱 政策 6	大綱に、就労支援に関する内容を記載したほうが良い。	

106	政策の大綱 政策 7	他の項目から見て、「市民生活」という表現は異質なものと感じる。「まちづくりの推進役」という記載にしてはどうか。	政策 7
107	政策の大綱 政策 7	大綱に、公民館でのコミュニティ活動実施を念頭に置いて「公共施設を有効に使うことができるよう充実させる」ことを追加してはどうか。	
108	政策の大綱 政策 7	コミュニティ施設にとどまらず、学校施設なども地域へ解放している事例もあるので、地域開放についての記載も検討した方が良い。	
109	政策の大綱 政策 7	人が集まることができるような場所を作るために、「にぎわい創出のために公共的な場所を充実させる」ことも追加してはどうか。	
110	政策の大綱 政策 7	施策名称に記載された「愛着意識」という表現に違和感を覚えるので、「愛着」という記載だけでもよいのではないかな。	
111	政策の大綱 政策 7	市民が、自分のまちの良さを知ることから、まちに対する愛着や誇りが醸成されるので、大綱の記載を「本市の財産である緑や地域の伝統文化などを市民に知ってもらうとともに、それらを活用して交流人口の増加を図ることで、」という表現にしてはどうか。	
112	政策の大綱 政策 7	「まちへの愛着をより一層感じられるまち」という表現があるが、まちの記載が重なっているので変更しても良いのではないかな。	
113	政策の大綱 政策 7	国際理解教育の実施や、国際交流活動に取り組む団体があることから、国際交流・多文化共生に関する表現があると良いのではないかな。	
114	政策の大綱 政策 8	「市民ニーズ」という記載と「市民の要望」という記載がある。表現の統一を図ってはどうか。	
115	政策の大綱 政策 8	市民では無いかたに尾張旭市の魅力をどのように伝えていくかということが重要なので、その部分が読み取れるような記載にした方が良い。	
116	政策の大綱 政策 8	行政経営という部分が見えてこない。	
117	政策の大綱 政策 8	「効率的な行財政運営」とあるが、効率的なものばかり追求すると小さくまとまってしまう。表現について検討してほしい。ただし、変更点が多すぎるようであれば、無理に変更しなくても良い。	
118	政策の大綱 政策 8	「時代の変化に対応できる職員の育成」は、「地域間競争を勝ち抜く人材の育成」という記載も良いのではないかな。	
119	政策の大綱 政策 8	政策の大綱の中に、今まで無かった項目などの、本計画の売りとなる部分をちりばめておく必要がある。	
120	政策の大綱 政策 8	大綱に「分野横断的な取り組みを進めます」との記載があるが、施策や基本事業部分に具体的な記載が無い。「基本事業 8-3-1 組織力の向上」に含まれる内容なのではないかな。	

政策1 みんなで支えあう健康のまちづくり

121	政策1	あたまの元気まるは非常に良い取り組みである。ほかにも新たな取り組みを、総合計画に取り入れていくという姿勢があってもいいのではないかと感じる。	
122	政策1	生活習慣などについて、気をつける部分をPRしていくなど、チェックを受ける前段階で注意喚起をしていくことが重要であるように感じる。	
123	政策1	医療と健康づくりの関連性が読み取れない。他の施策においても同様なので、他の施策との関連性について少しでも記載した方がよい。	
124	政策1	子ども医療の拡大により、安心して医療が受けられるのは良いが、その分気軽に受けられるようになってしまい、医療費が高くなり、本当に医療が必要な方が適切な医療を受けられない状況になっているのではないかと危惧する。	
125	政策1	当直医制度について、時間の制約などから、瀬戸旭医師会だけで事業を継続することに無理が出てくるのではないかと感じる。この制度を維持していくことについて記載を検討してほしい。	
126	政策1	人口を伸ばしていくからには、子育て支援は手を抜くことができない施策である。	
127	政策1	女性が働きながら子育てできる環境が整っていないと、そういった世代が他市に流出する。この分野は大切なのでアンケート結果などの分析が必要である。	
128	政策1	高齢者でも元気な方は働きたいと思っている。そういった方への就労支援を行うことで、雇用の創出、生きがいがづくり、健康増進につながる。	
129	政策1	高齢者の生きがいがづくりは重要で、これからは趣味の活動ばかりを進めるのではなく、生産活動に携わっていただく方を増やしていく必要がある。	
130	政策1	高齢者の中には、企業などで活躍された有能な方が多くいる。そういった元気な高齢者に働く場所や活動のできる場所を提供していくことが必要である。組織化することや自分が卒業した企業にも協力を求めていくことなどが考えられる。	
131	政策1	環境美化活動や地域福祉活動などで、元気な高齢者にいかに活動していただくかがますます重要になってくる。そういう意味では、高齢者福祉の推進という中に全て含んでしまうことには若干疑問を感じる。	
132	政策1	団塊の世代が高齢化するなかで、新しい価値観を持った高齢者が増えてきており、こういった方々が活躍できる場を地域に作る必要がある。	
133	政策1	高齢者に活動の場や一緒に考える場を作ってはどうかと思うが、具体的な記載が総合計画の中に無いことが気にかかる。	

134	政策 1	時間に余裕のある高齢者で何かやりたいという方を一元的に集め、活動を紹介するような取り組みを実施してはどうか。例えば、ジュニアリーダーズクラブでのシニア版をつくるなど、高齢者に活動の場や一緒に考える場を作ると良い。	
135	政策 1	実際に活動を行っている校区社会福祉協議会の会員数を成果指標とした方が良い。	
136	政策 1	地域福祉の担い手を育てていくことをどのように実施したらよいか、書き方を工夫して記載してはどうか。	
137	政策 1	生活保護世帯数が増加していることと自立する世帯数が増えていないことを、「一方」という記載でつなぐことは適切ではない。	
政策 2 豊かな心と知性を育むまちづくり			
138	政策 2	いじめや不登校の具体的な対策を記載した方がいいのではないかな。	
139	政策 2	施策の成果指標である「学校生活を楽しく送っている児童・生徒の割合」の現状値は、普通を含んでいることから、90%超の高い値である。 施策の対象を明確にするという点では、「学校が楽しくない」と回答した児童・生徒を減らす指標も良いかとは思いますが、行政が平均的な所に合わせて施策を展開していくというスタンスから考えると今の指標でも理解することができる。 楽しいと感じる生徒の割合を増やしていくことを課題とし、そういった生徒が多いということを市のアピールとするのであれば、アンケートの取り方や指標の考え方を変えてもいいのかもしれない。	
140	政策 2	学校給食におけるアレルギー対策について記載した方が良い。	
141	政策 2	「指導要録の評定で全教科の評定が3以上」については、絶対評価であれば、もっと高い目標でもよいのではないかな。	
142	政策 2	近隣市に比べて高い目標を掲げないと子育て世代の人口増加を図ることは難しいのではないかな。 今までと同じ取り組みをしても、人口は伸びないのではないかな。 他市と比べて魅力と映らなければ、人口は増えてはいかないのではないかな。	
143	政策 2	キャリア教育を実施している県内自治体があり、保護者の関心も高いので、特色ある学校づくりの推進の中で、具体的な記載をした方が良い。	
144	政策 2	塾に行く比率は高まってきており、無視することはできないと思うので、塾に関する記載が必要である。	
145	政策 2	図書の貸出をネットで予約して、公民館で貸出ができるようにしてはどうか	

146	政策 2	図書館は、他市に比べて蔵書数が少ないと思う。見たい本が無いとなると、そのうち図書館に足が向かなくなってしまうのではないかとと思うので、検討をお願いしたい。	
147	政策 2	「市民の生涯学習活動の中で、行政関係の主催事業が貢献しています。」とあるが、これからも行政主催の事業をこれまで以上に積極的に実施していくと捉えられてしまうので表現を見直した方が良い。	
148	政策 2	生涯学習は、生活が豊かになってくると重要になる施策であり、高齢者が増えていることから、充実が必要である。	
政策 3 快適な生活を支えるまちづくり			
149	政策 3	市の職員だけで基盤整備を進めるのではなく、地域の特性をよく知っている地域住民の意見を十分に取り入れて欲しい。	
150	政策 3	区画整理に変わる整備手法を総合計画のどの部分から読み取ればいいのか分かりにくいので、具体的な事業を基本事業として記載してはどうか。	
151	政策 3	市民要望が高い分野を基本事業の欄に掲載することで、市民にも分かりやすくなるのではないかと。	
152	政策 3	総合計画に具体的な検討事項が記載されていないため、代表的なものを記載してはどうか。	
153	政策 3	今後、土地区画整理事業は難しく、これからは地区の特性を生かした整備が必要だと思うので、施策をとりまく現状と課題に「区画整理以外のまちづくりの手法」を打ち出した方が良い。	
154	政策 3	自転車の保有台数が増加することが見込まれており、自転車専用レーンの整備は考えるのであれば、計画書に記載してはどうか。	
政策 4 安全で安心なまちづくり			
155	政策 4	最近、「3 連動地震」ではなく、「南海トラフ」という表現がされている。	
156	政策 4	尾張旭の過去の災害履歴やハザードマップなど、市民に対する情報の発信をもっと行う必要がある。	
157	政策 4	尾張旭が災害に強いまちであるということを市民にPRすることも重要である。	
158	政策 4	市民アンケートを指標にしているものがあるが、地域が変われば数値も変わってくると思うので、他市や県平均の数値があればいい。	
159	政策 4	歩行者と自転車の事故の発生を抑制するために、自転車専用道の整備や、交通マナーの向上が必要である。	
160	政策 4	消費者トラブルの相談窓口について、情報発信を積極的に進める必要がある。	

政策 5 環境と調和したまちづくり

161	政策 5	リデュース、リユース、リサイクルという優先順位から考えると、基本事業 03「リサイクルの推進」と基本事業 04「リユース活動の推進」は順序が逆になっていると思いますので、順序を変えた方が良いでしょう。	
162	政策 5	ごみの処理よりもごみの収集の方に課題があると思うので、基本事業の名称を「ごみ収集処理体制の整備」としてはどうか。	
163	政策 5	「市の施設における温室効果ガス排出量」が、愛知県の行動計画の目標値を下回っていると思うので、目標値を高くすることを検討するべきと思う。	
164	政策 5	地球環境保全是、改善が必要とされる政策課題であると思うので、取り得る方策があるのであれば、県の計画なども踏まえ、もう少し高い目標を掲げたほうが良いでしょう。	
165	政策 5	施策 5-2の現状と課題の2点目と4点目の内容の違いが分かりにくい。	
166	政策 5	施策 5-2の基本事業「総合的な環境行政の推進」には、行政の率先行動だけが記載され、市民協働の理念が含まれていないことから現状と課題の記載の整理が必要である。	
167	政策 5	施策の成果指標である「地球環境にやさしい取り組みの平均実践項目数」を伸ばすことが、政策 5 にどれほどの影響を及ぼすのかが分かりにくいので、説明があると分かりやすいと思う。	
168	政策 5	成果指標の「新たに生み出された緑の箇所数」という記載だけを見ると、公共空間だけの緑化を指しているようなイメージを持ってしまう。公共空間だけではなく、民地も含んだ緑化を進めるべきだと思う。	
169	政策 5	緑地の創出だけではなく、管理が特に重要になってくると思うので、保全という記載だけではなく、管理についても記載してはどうか。	
170	政策 5	管理を行うにあたっては、ボランティアや地域の協力が必要であると思うので、拡大していくように考えてはどうか。	
171	政策 5	成果指標の目標値だけを見ると、現状維持のトーンが強いように感じられ、公園都市としてまちづくりを進めてきた尾張旭市の魅力が出てこないように思う。公園都市としての特性や取り組みを「施策をとりまく現状と課題」に補記してはどうか。	
172	政策 5	尾張旭市は他市より高い数値になると思うので、施策をとりまく現状と課題に緑に関する共通指標として、「住民一人当たりの都市公園面積」記載してはどうか。	
173	政策 5	他市では、河川の水質保全と併せて生活排水対策の推進を基本事業として位置付けることもあるので、検討してはどうか。	

政策6 活力あふれるまちづくり			
174	政策6	現状と課題に地域商店街の活性化と記載されているが、本市の状況に合わせて、発展会に特化した記載の方が良い。	
175	政策6	工業の振興のためには、工業団地の造成や誘致が考えられるが、現実的には地理的に難しい。しかし、工業の振興に向けて、土地利用の点で含みを持たせるような記載があるといいのではないかと思う。	
176	政策6	地域特性を生かした工業では市民に伝わらないので、先端技術の育成など、もう少しストレートに記載した方が良い。	
177	政策6	「地域特性を生かした」は「環境を生かした」と言い換えても良いのではないか。尾張旭市は緑と健康が地域特性なので、このことを守りながら工業の振興を図る必要がある。例えば、精密機械のように埃の出ない、環境にやさしい工業の立地を考えてはどうか。	
178	政策6	尾張旭市のめざす都市型農業は、先祖伝来の田んぼが認定農業者によって保全されていることと、都市住民が農業に触れ合う機会が豊富にある環境をめざすことだと思う。	
179	政策6	成果指標の「勤労者施設以外の福利厚生メニュー利用者数」について、尾張あさひ苑で企業の研修を行うことなどにより、成果向上の余地があるのであれば、目標値を再度検討した方が良い。	
政策7 人と人がふれあうまちづくり			
180	政策7	青色回転灯の搭載車による防犯パトロールの取り組みが、他市に比べて積極的に取り組まれていると思うので、基本事業の中で、「特色ある地域活動への支援」について記載してはどうか。	
181	政策7	交流人口は、通勤・通学人口、買い物人口、観光入込客が主たる構成要素となりますので、にぎわいやふれあいの創出を意図した施策であれば、「交流人口」を拡大する成果指標とした方が良いのではないか。	
182	政策7	指標の目標値の考え方で、「わがまちに愛着を感じる市民の割合は比較的高い水準にある」と記載されているが、比較することができる他の数値があるのか。	
183	政策7	行政として男女共同参画施策を展開していくのであれば、子育て支援などの若い世代の夫婦が共に働くことができるような環境づくりなど、市として実施出来る取り組みを記載してはどうか。	

政策 8 分野横断的なまちづくりと市政運営

184	政策 8	例えば、情報発信のチャンネルの数を成果指標に掲げることを検討すると良い。情報発信の手段がいくつあるかをカウントして、倍増させるなどといった目標があると良い。	
185	政策 8	税収の増加を受け止める施策・基本事業が明らかになっていなければならないと思う。	
186	政策 8	現状と課題において、市民の視点で考える意識の醸成が必要とあるが、同じくらい行政経営の視点も必要。	
187	政策 8	職員が満足していない状況で、顧客（市民）に満足を提供することはできないと思うので、施策 8-3 の中で E S（職員満足度）の向上を掲げ、職員の満足度を高めていってはどうか。	政策の大綱



(2) 施策等に関するもの

番号	施策等	審議会委員の意見	関係施策等
1	計画人口	子育て世代の中でも共働きの世帯、特に働く女性の方を対象に、子育てをしながらも働き続けることができる環境について、踏み込んだPRをしないと、新たな人口の定着にはつながらないと思う。	政策1
2	計画人口	これからは、高齢者のみならず、男女を問わず単身者が増えるので、これらのかたにも駅前・駅周辺に居住してもらう取り組みを進めてはどうか。	
3	計画人口	人口を増やすためには、ハード面の整備よりも、若い世代の人達が住みつけるような魅力ある施策が必要である。	
4	社会環境の変化	<p>P3～6までの総合意見として</p> <p>第2章社会環境の変化1～7までの末尾に「求められています」とありますが、第五次総合計画が「目標管理型の計画」として策定されるのであれば、「求められています」は、イコール「目標を達成しなければならない」ということになると思う。</p> <p>P4 「7 地方分権改革の進展」</p> <p>「市民に最も身近な自治体が、市民ニーズに対応したきめ細かいサービスを提供するために、基礎自治体の役割は高まりつつあり、自主性と自立性が一層求められています。」とある。</p> <p>そのための施策として以下を提案したい。</p> <p>①地域、各組織団体（自治会・町内会・校区社協・子ども会・シニアクラブ・消防団等の地域奉仕団体）に予算（助成金）と権限を持たせ、市民の意識を自立させる。</p> <p>②行政からの出張指導、情報提供、相談対応等、自治会（町内会）単位での、定期的な集会の機会（意見交換会）の実施。</p> <p>③子育て支援策や町内会単位で近所づきあいの復活のため、0～3、4歳児の母親の懇談会等の集いの場の提供と相談支援の定期的な開催。</p> <p>④公民館において、各団体、組織の役員達がいつでも相談できる行政職員の常駐。（縦・横の垣根を超えた意見交換、情報交換ができる雰囲気、部屋の設置が必要）</p> <p>⑤地域活動の内容によって費用弁償も検討すべき。（意識改革）</p> <p>※「ずっと住み続けたい」という気持ちを高める、安全安心な健康都市を達成する。</p>	<p>政策1</p> <p>政策7</p>
5	政策の大綱 政策2	自治体にとっても若い世代が少なくなっていく中で、若い世代が早い段階から地域社会に溶け込む取り組みを進めていくことは、必要である。	
6	政策の大綱 政策2	高齢者の生きがいづくりとボランティア活動の活性化、生涯学習の推進は、重なる部分もあり、連携が大切であると思う。	
7	政策の大綱 政策4	警察署に関する記述が無いが、市の総合計画で警察署の業務を取り扱うことは難しく、又、施策・基本事業の記述からも読み取ることはできると思う。	

8	政策の大綱 政策4	部会で議論を行った内容が網羅された表現がされていると感じる。	
9	政策の大綱 政策4	市内事業所が加盟している守山旭工場事業所防犯協議会に行政関係者は参加していない。この協議会にとどまらず、市内の犯罪発生状況などの情報を共有する場には、可能な範囲で行政関係者に参加をしても良いのではないかと。	
10	政策の大綱 政策7	廃止が検討されている市民会館の跡地を広場にするなど、利活用を考えてはどうか。	
11	政策の大綱 政策7	自らまちのために行動する市民になるためには、まちのことをきちんと知ったうえで、まちに愛着を持ち、まちづくりに関わっていただくことが重要。	
12	政策の大綱 政策7	外から来たかたの声を聞くことで、魅力に気づききっかけにもなるかと思うので、交流人口の増加も重要である。	
13	政策の大綱 政策7	尾張旭市では地域に密着した盆踊りなどが市内30か所近くで開催されており、地域の魅力の一つと言えるのではないかと。	
14	政策の大綱 政策7	まち歩きは、ウォーキングとも言い換えることができ、尾張旭市は健康都市の一環としてウォーキングを推進されていますので、健康都市づくりと交流人口の増加を連動させることができる取り組みになる可能性がある。	
15	政策の大綱 政策8	行財政運営の進め方と職員の意識の転換を図り、財源や市民ニーズといった視点だけで事業を計画するのではなく、積極的に市から新しい事業を提案し、市民に説明していくことも重要である。	

## 政策1 みんなで支えあう健康のまちづくり

16	政策1	市民が安心して医療機関を利用し、医療費が低くなるのが理想だが、そうでないならば、そのギャップを埋める手立てを考える必要がある。	
17	政策1	必要ときには医療を受け、健康増進の取り組みによって不必要な医療費は縮減していくことが必要である。	
18	政策1	高齢者の方のボランティア参加率が徐々に高まってきているが、まだ浸透していないところが実情と思う。	
19	政策1	高齢者のボランティアの中心になって動くボランティアリーダーの養成が必要と考える。行政が必要に応じて費用を出すことも考えた方がいいのではないかと。	
20	政策1	障がい者のかたのケアホームやグループホームが、市内に2か所では少ないと思う。	

## 政策2 豊かな心と知性を育むまちづくり

21	政策2	虐待やいじめの件数のみを見て、改善されたとか悪化したとか判断することは難しい。また、数字の目標値が教育現場を縛ってしまうことになってはいけない。ただし、現状を把握することは非常に重要である。	
22	政策2	伝統文化を絶えさせてはいけないので、芸術文化を区別して、対策を考える必要がある。	
23	政策2	スポーツ施設・設備の充足度を高めるため、尾張旭市民プールをリニューアルし、健康増進の取り組みを安価に取り組むことができると良い。	
24	政策2	財政状況などを考えると、施設の建設はなかなか難しい状況だと思う。	

25	政策 2	プールや体育館などの体育施設を持つ市内の学校や民間事業者に、休みの日に貸していただけるような交渉をしてはどうか。	
政策 3 快適な生活を支えるまちづくり			
26	政策 3	車がないと生活しにくいまちでもあるため、市営バスを利用しやすくしてはどうか。	
政策 4 安全で安心なまちづくり			
27	政策 4	行政は、連合自治会に対して災害に関する情報提供を行っているが、町内会の各班単位まで行政が関与することができていない。そのことが自治会加入率の低下にも影響しているのではないかと。	
28	政策 4	防災・減災に対する行政の支援が行き渡っているがために、役員をやる負担を背負ってまでも町内会等の組織に加入する必要性を住民が感じていない面があるのではないかと。	
29	政策 4	防災・減災については、自分たちのことは自分たちで守るという考え方が大切であるため、市民の日頃の意識を高めていくことが必要である。	
30	政策 4	普通救命講習については、社会福祉協議会やシニアクラブなどと連携して、使う確率の高い高齢者の方を対象に講習を実施していくと良い。	
31	政策 4	基本事業として高齢者の交通安全対策を進めていくことは重要であるが、どのように対策を行うのかを考える必要がある。	
32	政策 4	犯罪抑止効果があるとされる防犯パトロールなどは、自治会活動の一環であり、また地域のつながりが犯罪抑制に効果があると考えられるので、多くの市民に自治会に加入していただく仕組みが必要である。	政策 7
政策 5 環境と調和したまちづくり			
33	政策 5	プラスチック製容器包装の回収を2週間に1回から1週間に1回にして欲しいという要望が多いので対処すべきだと思う。	
34	政策 5	最終処分量を減らしていくためには、分別収集の区分をどうするのか、頻度をどうするのかといった点がポイントになる。	
35	政策 5	施策を取り巻く現状と課題において、「高齢者などに配慮したごみ収集方法の検討が求められます。」という記載があるが、都市部で個別収集を実施している自治体は珍しいので、拡大の方向を打ち出すと、市の特色になると思う。	
政策 6 活力あふれるまちづくり			
36	政策 6	住民を増やすために、買い物に不便を感じないということも一つの売りになる。具体的には、買い物が困難な子育て世帯や高齢者に宅配を行うなど、個々に対応できれば、尾張旭市の魅力になるかと思う。	
37	政策 6	日常生活に必要な商品を市内で買う市民の割合を向上させるためには、発展会が、市民生活に密着したサービスを提供できるかがポイント。	
38	政策 6	国や県の出先機関や研究施設が誘致できると、市内の工業のレベルも向上し活性化するのではないかと。	
39	政策 6	地域職業相談所を利用して就職した割合が7%であるのは、低すぎると思う。	

40	政策6	若い世代のニート対策が、今後問題になってくる。表に出にくい根深い問題であり、潜航して掘り起こすなど課題として意識することが必要。	
政策7 人と人がふれあうまちづくり			
41	政策7	将来的には、地区公民館をコミュニティ活動の拠点にしてはどうかと思う。地域のかたが集まることのできるスペースとサポートができる職員の配置が実現すると、自治会加入率も増えるのではないかと思う。	
42	政策7	今後、施設を新しくするかどうかは未定だと思うが、設置を考えるのであれば、みんなで集まりふれあうことができる場所があった方がよい。	
43	政策7	マンション住民と地域住民の交流がないということを良く耳にするので、新旧住民が交流するための取り組みを進めると良いのではないか。	
44	政策7	高齢者が常時集まることのできるような、楽しみがある施設が市の中心部にあると良い。また、娯乐的な要素を含むのであれば、行政で実施することは難しいと思いますが、例えば商工会や農協とタイアップして、事業を検討してはどうか。	
45	政策7	市に愛着を持ってもらうためには、市民に尾張旭市のことを理解してもらうことが重要であるので、市の歴史や文化を知ってもらうことが必要。	
政策8 分野横断的なまちづくりと市政運営			
46	政策8	市の魅力の発信は、極めて重要であり、いかに高い目標を掲げて、きちんと取り組むことができるかが重要になる。	
47	政策8	前期の5年間でまちの魅力を作り出すなどといった、当面10年間のシティセールスの行動計画を作ることも考えてはどうか。	
48	政策8	シティセールスを担当するセクションの人員を手厚くするなどして、取り組みを進める必要がある。	
49	政策8	人事交流などにより民間企業に研修に行くことや民間から職員を受け入れることなどがあるといいのではないか	
50	政策8	行財政改革を進めるためには、チャレンジする職員が増えていくことも大切な要因である。	
51	政策8	これからは、行財政改革の意識を高めると同時に、人口を増やす、税収を増やす、償却資産を増やすことに戦略的に取り組むことができる職員を増やす必要がある。	